

「原子カムラ」の境界を越えるためのコミュニケーション・フィールドの試行
第4回フォーラム検討会議
議事録

日時：平成24年12月21日（金）10：00～12：50

場所：TKP スター貸会議室根津

出席者：11名（順不同・敬称略）

木村（東大）、足立（元気ネット）、植木（元気ネット）、円満字（PONPO）、
大石（PONPO）、神崎（PONPO）、鬼沢（元気ネット）、久保（PONPO）、
渋谷（元気ネット）、竹中（東大）、丸山（NV研）

配布資料

- F4-0. 議事次第
- F4-1. 第3回フォーラム検討会議議事録（案）
- F4-2. 第3回フォーラム検討会議逐語録
- F4-3. アンケートご協力のお願い（専門家用）
- F4-4. 第7回「エネルギーと原子力に関するアンケート」（専門家用）
- F4-5. アンケートご協力のお願い（首都圏用）
- F4-6. 第6回「エネルギーと原子力に関するアンケート」（首都圏用）
- F4-7. フォーラムに関する議論の整理
- F4-8. フォーラムへのご協力のお願い
- F4-9. フォーラム参加申込書（専門家用）
- F4-10. フォーラム参加申込書（首都圏用）

議題

- 0. 議事録確認
- 1. フォーラム検討状況の確認
- 2. フォーラム説明およびフォーラム参加申込書の検討と確定
- 3. 今後の進め方について検討

※議論の詳細については、逐語録に記録されている。

0. 議事録確認 (配布資料 F4-1、F4-2、F4-3、F4-4、F4-5、F4-6)

議事録 (F4-1) は、時間の都合上、読み上げることは省略された。

木村氏より、社会調査グループによって確定されたアンケートの内容の説明がなされた (資料 F4-3~F4-6)。

また、フォーラム参加申込書を渡すタイミングが、首都圏調査と専門家調査で異なることが説明された。首都圏調査は、本アンケートを回収する際に、フォーラム参加申込書が手渡しされる。専門家調査では、本アンケートとフォーラム参加申込書が同時に郵送される。

- ・ 学会員向けアンケートおよびフォーラム参加申込書の締め切りが記されていない。
→どちらも 1 月末の予定。その旨を明記する。

1. フォーラム検討状況の確認 (配布資料 F4-7)

木村氏より、F4-7 に基づき、前回までの検討内容が説明された。

2. フォーラム説明およびフォーラム参加申込書の検討と確定 (配布資料 F4-8、F4-9、F4-10)

木村氏より、資料 F4-8、F4-9、F4-10 に基づき、フォーラム説明書およびフォーラム参加申込書の内容が説明された。

まず、資料 F4-9 および F4-10 の「フォーラム参加申込書」の内容の検討が行なわれた。

- ・ F4-9 の Q9 (F4-10 の Q10) は、原発をやめるためなら電気料金が上がってもいいか、という質問。それに対して「原子力発電をやめる必要はない」という選択肢は対応していないのではないかと。
→Q9 は、本来は「やめるべきか」を問うた後に行なうべき質問。だが、紙面と設問の順番の都合上、それはできない。複数回答にすることで対応しているが、次善の策ではある。(参加者の層を知る目安にはなる)
- ・ 申込書の締め切りは、経験則から月曜日にすることが多いが、1 月末でよいか。
→早すぎると首都圏と専門家の時期がそろわない。遅すぎると開封作業等が追いつかない。1 月末が妥当だろう。
- ・ 5 回全て参加できる人が申し込むということを、申込書にも記載するべきではないかと。

続いて、資料 F4-8「フォーラムへのご協力のお願い」の内容について検討が行なわれた。各自が資料に目を通した後に議論がなされた。重要な論点を以下に示す。(文章の細かい修正については省略する)

【1 ページ目】

- ・ 「一般の人びとと原子力専門家の関係性を変えられるか見つけていきたい」とあるが、「原子カムラ」と言われるような関係性が本当にあるのかどうかもまだ分からない段階で、いきなり「変える」という単語を使うべきか。「お互いの関係性を知り、それを変えられるかどうか」など、1段階クッションを入れたらどうか。
→「変えられるかどうか見つけていく」ことがこの研究の大きな目的なので、それが直接伝わる表現を使いたい。
- ・ 「代表として参加していただく」という言葉は入れるべき。

【フォーラムの実施方法】

- ・ 5回全てに参加することが前提である、ということをもう少し強調すべきではないか。
→「フォーラム参加」に関する諸条件」にも5回参加の旨を記載する。
- ・ 日程は、5月末から、隔週土曜日で確定された。(5月25日、6月8日、6月22日、7月6日、7月20日)
- ・ 第1回の前日に打ち合わせを行なうことになった。
- ・ ホームページは、PONPO のホームページ内に立ち上げることになった。URL を記載することになった。
- ・ フォーラム後のインタビューは、8月から順次行なうという計画になった。

【フォーラム参加に伴う謝金】

- ・ 遠方の専門家に交通費は支給しないのか。→支給しない。
- ・ インタビュー協力者への謝金も記載すべき。

【フォーラムに参加するためには】

- ・ 申し込みの期限を追加すべき。

【「フォーラム参加」に関する諸条件】

- ・ 障害保険に加入し、補償の備えがあるということを示すことは重要だ。
- ・ 精神的なダメージは補償できるのか。
→それは難しい。そのため、参加の任意性や、同意を得てから始める旨を記している。
- ・ 途中で協力を撤回し、欠員が出た場合は、補充できるのか。→できないだろう。
- ・ 「録音や録画についての協力をお聞きし」とあるが、協力という文言は必要なのか。
→必要だ。毎回協力の確認をする必要がある。

【連絡先】

- ・ フォーラム実施主体の PONPO 代表の神崎氏の名前も入れるべきだ

上記の意見を踏まえ、最終的に木村氏と竹中氏によりチェックがなされ、内容が確定した。

3. 今後の進め方について検討

木村氏より、フォーラム検討会議のメンバー内で予備フォーラムを実施する提案がなされ、同意が得られた。

それに基づき、今後の予定が決定された。

次回は1月8日（火）である。午前は原子カムラ、コミュニケーション・フィールドについての話題提供。午後は予備フォーラムの準備等を行う予定である。

第6回は1月18日（金）で、予備フォーラムを実施する。

第7回は現時点では未定である。第8回は2月19日（火）で、回収された申込書に基づきフォーラム参加者を決定する。

以上